

SHEL学習（総合的な学習の時間）学習指導案

日 時 平成28年9月9日（金）2校時

場 所 体育館

授業者 佐々木 智子 鈴木 久美子

高橋 洋之 伊藤 光喜

1 主題名 「共に学ぶ ～SHEL学習で、学び、考えたことを交流しよう～」

2 主題について

下橋中学校では、「総合的な学習の時間」を『SHEL』と名付けている。『SHEL』とは、S（下橋中で）、H（人と）、E（環境を）L（学ぼう）の頭文字をつなげたものである。

本校では、『SHEL』で目指す生徒像を、次のように捉えている。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 豊かな体験学習をもとに、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決することを通して、学び方やものの考え方を習得できる生徒(2) 地域における体験や人々との交流を通して、問題の解決や探究活動に、主体的・創造的に取り組み、自己の生き方を考えることができる生徒(3) 自然との共存の中で、社会に貢献している人から学ぶことを通して、自然を大切にし、社会に貢献できる生徒 |
|--|

上記の目指す生徒像に迫るため、「環境」を中心に据えた体験活動を通して、実践を積み重ねてきている。1学年では、森林体験学習（以下「SHEL道場」という）や川体験学習などを通して、美しい自然や生命に感動する心や、自然と共に生きていく態度を育てることを目標としている。2学年では、職場体験、修学旅行でのNPO・NGO訪問や「緑のサヘル」講演会などを通して、社会を形成している様々な人との繋がりを経験する中で、自己の価値観を磨き、望ましい職業観・勤労観などをもてるよう指導している。3学年では、「森は海の恋人」体験学習を行い、室根山の植樹活動や水山養殖場での自然体験、講演会などを通して、人としてよりよい生き方を探究しようとする態度、自然との共存の中で地域や社会に貢献する態度、さらに未来への夢や目標をもち、その実現に向かおうとする態度を育成しようと努めている。

本単元は、1学年のSHEL道場、2学年の職場体験、3学年の「森は海の恋人」体験学習を示しており、本時は各学年の単元末に位置付けている共通の「振り返り」場面である。1学年のSHEL道場は、3年間のSHEL学習の基盤となるもので、森林の役割などを講演会や間伐作業を通して学び、環境学習への基礎的な知識、自然や生命を感じる心を育てるよう指導している。班ごとに共通課題をもち、学んだことをポスターにまとめ、発表会では調べたことや考えたことを伝えている。2学年の職場体験は、班ごとに盛岡周辺の職場を訪問し、「環境」に対する職場の考えや努力を知ること、自らの生活を見直し、改善への意識を高める機会としている。訪問した職場で学んできた内容をまとめ、学年でポスターセッションを行っている。3学年の「森は海の恋人」体験学習では、NPO法人「森は海の恋人」への訪問や室根山での植樹体験を通して、森と川と海の繋がり、さらに室根山と気仙沼の海で生活する人々との繋がりを学び、3年間の「環境」学習の総まとめと位置付けている。学んだ内容は各自でSHELノートにまとめ、個人新聞を作成している。以上のように、各学年としての「振り返り」は実施しており、本時はさらに全校で3年間の学習のつながりや、活動を通してどのような力を身につけてきたのかを、生徒自身が確認する場面である。全校での「振り返り」の活動を通して、新たな課題意識をもち、自らの考えの変容や深まりを実感させたい。

4 本時の目標

- ・各学年の発表を聞き、自らの体験と照らし合わせながら考え、相互に批評及び意見交換ができる。
- ・学習の成果を認め合い、今後の学習や自らの生活に生かそうとする。

5 本時の展開

学習活動	■指導の工夫・支援 ●評価	時間
1 本時の課題把握と内容の確認 ・コーディネーターから、学習の目的や概要について説明する。	■コーディネーターが説明できるよう指導する。	3分
共に学ぶ ～SHEL学習で、学び、考えたことを交流しよう～		
2 学習の成果の発表 ・1学年から順に体験した内容や学んだことを発表する。 1年生：SHEL 道場 2年生：職場体験学習 3年生：「森は海の恋人」体験学習	■事前に発表者には、声の大きさなどに注意し、聞き手を意識した発表ができるよう指導する。 ■フロアには、自分の考えをもちながら、発表を聞くように伝える。 ●発表を聞く姿勢は積極的か。＜行動観察＞	20分
3 意見や感想の交流 ・パネリストの生徒が自己紹介し、感想を発表する。 ・コーディネーターが話し合いの柱を確認する。 (1) 各学年の発表を受けての感想や質問・意見、アドバイスを行う。 (2) SHEL 学習を通して、わかったことや気づいたことを交流する。 ・コーディネーターの進行により、パネリスト同士やフロアが参加して、積極的に意見交換を行う。 ・今後どのような思いで学習に取り組むか、また後輩に託したい思いなどをパネリストが述べる。	■コーディネーターが、意見を引き出しながら進行しているかを確認し、膠着状態になった場合は進行の指示を出すなど支援する。 ■質問や反論があった場合は、パネリストだけでなくフロアの生徒に発言を求めるよう事前に指示する。 ●自分の考えをもち、積極的に話し合いに参加したか。 <発表態度・内容・SHEL ノート記述> ■フロアの意見なども取り入れながら、パネリストとして全体に伝えたいことを表現することができるよう事前に話しておく。	40分
4 本時のまとめ ・本時で交流したことをコーディネーターがまとめる。 ・教師は3年間のSHEL学習のつながりについて、生徒が意識できるように評価を行う。	■本時の活動の成果について具体例を挙げ、よさを認める視点から評価することにより、今後の取り組みに意欲をもたせる。 ●本時を含めた学習活動を振り返ることができたか。 < SHEL ノート記述 >	7分